いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第 44 号
（平成 25 年 7 月 15 日号）
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

梅雨の長雨の中、爽やかな夏を待つ今日この頃。復興に向けて歩み続ける被災地。そんな岩手の今を紹介します。

私たちの未来を考える

若者との意見交換会が開催されました

宮古市

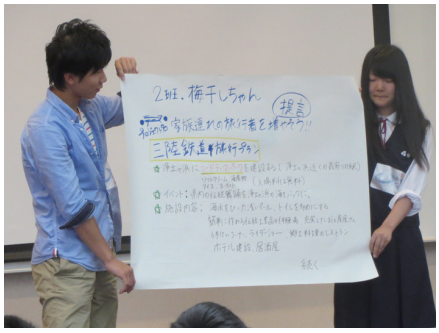
6 月 29 日（土）、岩手県といわて高等教育コンソーシアムとの共催で、被災地の高校生と岩手県内大学生・高等専門学生が参加したワークショップが、宮古市で開催されました。

このワークショップは、次世代を担う若者が、被災地の復興と未来について自らが考え、若者の立場から意見を提言し、県の施策へ反映させていく目的で行われたものです。

当日は、高校生 66 名（男性 35 名、女性 31 名）、大学生等 26 名（男性 13 名、女性 13 名）の合計 92 名が参加。高校生と学生は、13 のグループに分かれ、グループワークの後、提言をまとめ、グループごとに発表しました。

今後、これらの意見について「三陸創造プロジェクト」の具体化の中で検討し、「復興実施計画（第 2 期）」の策定に生かしていきます。

ワークショップの模様



グループの発表

三陸創造プロジェクトに対する提言例

【さんりく産業振興プロジェクト】
- 三陸の宝（海産物・文化・観光・人・自然）を産業として活かす
- 産業を活かすための後継者の育成（漁業・伝統芸能の継続・発展）

【新たな交流による地域づくりプロジェクト】
- 観光客を増やし、そこから長期滞在者をつくるための地域づくり
- 町に来やすい便利な交通が必要

未来のさんりくびと

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。新連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。
第１回は、柏崎未来さんを紹介します。

三陸ひとつなぎ自然学校
柏崎未来
（かしわざき　みき）さん

PROFILE

釜石市片岸町生まれ。高校卒業後、北海道の大学へ進学。大学卒業後は、北海道寿都郡の「黒松内ぶなの森自然学校」で、子どもたちのキャンプ指導等に従事。2011 年３月の東日本大震災津波発生を機に釜石へ帰る。現在は「三陸ひとつなぎ自然学校」（釜石市）で「子どもの居場所づくり」等の取り組みを行っている。

自分の知っている場所が、一瞬にして知らない場所になった

東日本大震災津波発生翌日に、同僚とともに北海道を発ち、釜石へ。高速道路も通行できない中、やっとの思いで釜石に到着したものの、親しんだ街が跡形もなくなっている光景に、言葉にできないほどのショックを受けたと当時を振り返ります。

震災後、家族のそばにいたい、自分にできることはないか、との思いで釜石に留まることを決意。現在は、応急仮設住宅の建設により公園等の遊び場を失った子どもたちの居場所を作る取り組みを中心に、交流人口の増加にも意欲を見せるなど、忙しい毎日を送っています。

釜石に来て、元気な姿を感じてほしい

「友達、親戚も含め、失ったものも多くありますが、支援で来てくださった方々との出会いの中で、自分は一人じゃない、仲間がいるんだ、という励みをいただいています」「一度釜石に来て、釜石の元気な姿を感じてもらい、これからの街づくりの仲間になってください」と柏崎さんは笑顔を見せてくれました。

いわて復興応援団（員）大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料

首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。　いわて復興応援団　検索

沿岸各地で復興が本格化

田野畑村サケふ化場の竣工式

7月9日（火）、津波で壊滅的被害を受けた田野畑村のサケふ化場（田野畑村明戸）の竣工式が行われました。

このふ化場は、隣接する普代村と共同利用する計画で、約1,200万匹の稚魚を育成し、来春放流する予定です。

サケの水揚げは沿岸地域の漁業に大きな影響を与えるため、一日も早い復旧が望まれている中、地域にとって明るいニュースとなりました。

竣工式の模様

大槌町と宮古市で安全祈願祭

東日本大震災大津波で大きな被害を受けた沿岸各地で復興整備事業（土地区画整理事業による土地の嵩上げ、防災集団移転促進事業による高台住宅整備等）がスタートし、6月29日（土）には大槌町の町方地区で、また7月3日（水）には宮古市の田老・乙部地区でそれぞれ安全祈願祭が開催されました。

土地取得の難航等により、思うようには進んでいなかった復興まちづくりが、着実に歩みを進めています。

岩泉町で災害公営住宅建築工事スタート

7月3日（水）、岩泉町の小本地区で災害公営住宅建築工事がスタートしました。

この工事では、RC造2階建て共同住宅16戸と木造2階建て長屋4棟20戸、計36戸の共同住宅の建設が予定され、来年2月の竣工を目指しています。

三陸鉄道北リアス線の島越駅付近の復旧工事

津波により駅舎や高架橋が流された、三陸鉄道北リアス線の島越駅付近の復旧工事も着実に進められ、2014年4月には、現在不通となっている田野畑駅～小本駅間（10.5km）を含む全線の開通を目指しています。

田野畑駅～島越駅間の高架橋復旧工事の様子
※ 橋脚の構築が完了し、桁架設が始まっている。

「シートピアなあど」が本格的に営業を再開しました　宮古市

7月6日（土）、宮古市広域総合交流促進施設「シートピアなあど」が、災害復旧工事を終え、本格的にオープンしました。

「シートピアなあど」は2003年にオープン。2005年には「道の駅」及び「みなとオアシス」に指定。地元のみならず、宮古地域の観光拠点の役割を担ってきました。

2011年3月の東日本大震災津波では、施設が甚大な被害を受け、営業休止に追い込まれましたが、昨年3月から仮設施設での営業を再開。本格的な再開が待ち望まれていました。

当日のオープニングセレモニーでは、山本正徳宮古市長が、「宮古市の復興のシンボルとしてアピールできるものと思っています。多くの農林水産物を販売することは地域活性につながるので、多くの皆様に利用していただきたい」と挨拶しました。

施設前の広場で開催された記念イベントでは、「Sea級グルメ全国大会」に出品される「あんかけウニ飯」や「鮭のメンチカツ」の販売をはじめ、さくらんぼ、ブルーベリーなど、旬の野菜や果物を販売する産直市等に来場者が行列を作りました。

また、屋外の特設ステージでは、同施設の再開を祝って、地元伝統の山口太鼓や民謡歌手・小田代直子さんが歌声を披露し、大きな拍手を受けていました。

夏の観光シーズンを目前に再開された同施設は、今後、多くの観光客の拠点として、また、市民の台所として活躍することが期待されています。

賑わう「なあど」の売店

山口太鼓の演奏

岩手県の被害状況　平成25年6月30日現在

▶人的被害　死者：4,672名　行方不明者：1,146名
▶建物被害（住家のみ、全半壊）　24,928棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　平成25年6月30日現在

▶義援金受付状況　約177億8,929万円（85,910件）
▶寄付金受付状況　約165億3,294万円（6,199件）
▶いわての学び希望基金受付状況　約58億522万円（10,554件）
※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

いわて復興だより　第44号　平成25年7月15日　企画・発行：岩手県復興局総務企画課　☎019-629-6925
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索
編集・印刷：シナプス